

ここで暮らし続けるために活かしたい 中山間直接支払「集落機能強化加算」

2020年の第5期対策から新設された「集落機能強化加算」。
むらの困りごと解決に、これを使わないままにするのはもったいない。



岩手県花巻市小山田地区 (p89)

みんな80代になっても 元気で楽しく暮らすために活かす

青森県弘前市乳井地区

文・写真＝編集部



乳井中山間直接支払協定代表・成田元春さん。集落機能強化加算を整備費用の一部に充てた乳井神社の池（貯水槽）の前で

「営農以外」が対象の加算措置

「この池の工事にも『集落機能強化加算』を充てているんですよ」

成田元春さん（75歳）は、青森県弘前市の「乳井中山間直接支払協定」の代表。さっそく案内された乳井神社の池は、参道の階段を上って赤い鳥居をくぐるとすぐ左にあった。なるほど池をかたどるコンクリートの白色が真新しい。草が茂り、水の中には藻が繁茂して「きったならしかった」池がすっきりした。正確には池というより防火用の「貯水槽」として整備されたもので、利用したおカネも「加算」だけではないのだが、成田さんたちの賢い補助金活用法についてはまたあとでふれたい。

弘前市の南東部にある乳井地区は、文字どおり乳白色に濁った湧き水が地名の由来という歴史のあるむらだ。平安時代から栄えていたそうで、かつてこの地を治めていた豪族・乳井氏の居城跡や乳井神社などの史跡が山の麓に点在

する。その山の斜面にリンゴ園が開かれており、34haある畑が中山間直接支払の対象になっている。

集落機能強化加算は、2020年度からの中山間直接支払・第5期対策で新設された。元来は中山間地域の農業生産活動支援を目的に始まった直接支払交付金の加算措置でありながら、「営農に関するもの以外」を対象に支援する。その背景には「地域コミュニティの一層の強化の必要性、裏を返せば危機感が読み取れる」というのだが、残念ながら今のところ利用は低調だ（本誌21年秋47号P84参照）。

農水省の資料によれば、集落機能強化加算の対象活動の例には「地域自治機能強化活動」として高齢者の見回りや送迎、買い物支援、雪下ろし（除雪）などが挙げられている。コミュニティサロンの開設や農福連携、営農ボランティアの受け入れなどもある。



集落